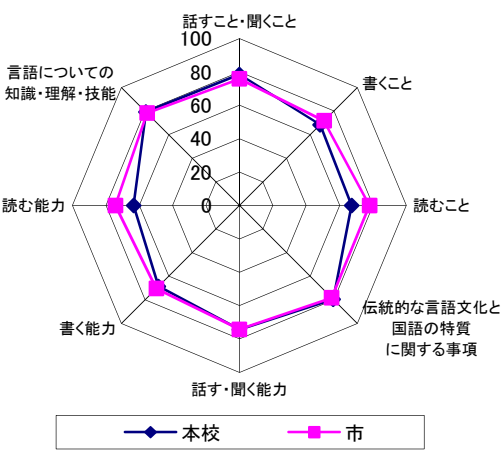


宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	78.5	75.9	71.7
	書くこと	68.4	71.8	73.2
	読むこと	67.3	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.5	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	74.4	74.2	70.8
	書く能力	68.6	70.4	71.0
	読む能力	63.4	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	79.2	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

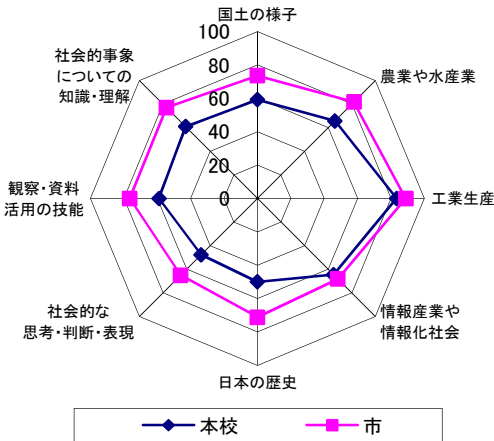
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は市平均よりも、2.6ポイント高い。 ○話し手の意図や工夫を考えながら、話し合いの内容を聞き取ることができ、市平均よりも、2.6ポイント正答率が高い。 ●司会者の役割を理解して、発言者にテーマに沿った発言をするよう注意を促す記述式の問いでは、約半数の正答率だった。それでも、市の平均を上回ってはいる。	・司会者になって、注意をどう話すかの問いの誤答の中には、内容はほぼ合っているが、指摘が不十分なものも含まれている。実際に、司会者を経験させる中で、適切な指摘ができるように、指導を積み重ねたい。
書くこと	平均正答率は市平均よりも、3.4ポイント低い。 ○文字数を守って、2つのグラフから読み取った事実を基に、自分の考えを書けた割合が、市平均を7.6ポイント上回っている。 ●話し合いの内容から、安全マップに書き足すために必要な情報を読み取り、敬体で書く問いでは、正答率が半数以下と低く、市よりも8.1ポイント低い。	・2つのグラフから正しく読み取るために、他教科においても、事実と自分の意見とを分けて短い文で書く練習を続けたい。 ・安全マップの案と保健室の日記と話し合いの様子から、事実と注意を書く内容である。3つの資料、しかも、1つは話し合いの様子ということなので、関連した読みの力が必要になる。資料を見比べ、関連させ、自分の考えをまとめる学習をさらに取り入れていきたい。
読むこと	平均正答率は市平均よりも、10.7ポイント低く、他領域に比べ差が出た領域になった。 ●文学的文章において、登場人物の心情を読み取る問いについては、市平均より11.2ポイント低い。 ●説明的文章において、文章の内容を的確に読み取る問いでは、市平均より15ポイント低い。	・登場人物の心情を考える問いでは、問いの近くの言葉や直接的に描写される言葉だけでなく、登場人物相互の関係に基づいた会話や行動などを通して心情を想像することが大切になる。相互に意見を出し合い、暗示性の高い表現を意識させ深めていきたい。 ・やや難しい内容なので、図解がしてあり、それがヒントになっている。その図解と文章を合わせて読むと、内容が把握できる。他教科の調べ学習等でも機会を作り指導をしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は市平均よりも、1.3ポイント高い。 ○漢字の読み書きの内容については、書きの正答率が100%のものもあり、この領域の正答率を押し上げている。しかし、「朗報」の読みの正答率のみ、市より低かった。 ●文の中の主語を選ぶ問いでは、正答率が約半数である。市とほぼ同じ割合ではある。 ●尊敬語の使い方の問いでは、市より11ポイント低い。正答率も低い。	・日頃の漢字練習だけでなく、読書によって語彙量を増やすことを指導していきたい。 ・主語は「わたし」「ぼく」などの言葉に迷うことなく、「～が～は」などの助詞を手掛かりに見つけることを再度復習したい。 ・丁寧語、謙譲語、尊敬語の使い方とそれぞれの違いをもう一度整理して理解させたい。学習したことを、日常の場面で、この言い回しがよいか判断させるなど、つなげていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	59.2	73.6	76.2
	農業や水産業	65.6	81.9	77.5
	工業生産	83.3	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	64.6	68.2	61.0
	日本の歴史	50.0	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	47.7	65.1	62.1
	観察・資料活用の技能	59.0	76.5	75.2
	社会的事象についての知識・理解	60.9	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

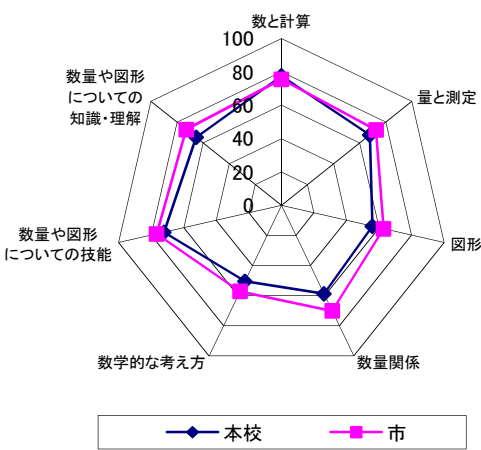
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市の平均より14. 4ポイント下回った。 ●地図上に示された大韓民国の位置を答える問題では正答率が62. 5%である。誤答は「中華人民共和国」との解答が多い。日本周辺の国について理解が不十分である。 ●世界の川と比べた日本の川の特徴をグラフから考え答える問題では正答率が66. 7%である。誤答は「長くて、流れがゆるやかである。」との解答が多い。グラフに示された日本の河川が利根川や信濃川など国内では長い河川であるための誤りと考えられる。	・5年で学習した内容である。地図を活用し、位置を確認するとともに、周辺国の特色を紹介した画像や動画などを紹介することによって、イメージを持たせたい。 ・世界地図やグラフ、画像などを用いて、資料から日本の特色をとらえるとともに、資料活用の技能の向上を図りたい。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より16. 3ポイント下回った。 ○米作りを行う人々の工夫や努力についてはの設問に対する正答率は70. 8%であり、おおむね理解している。 ●米の生産地域の傾向を統計地図から読み取る問題で市平均より25. 4%、牛肉の消費量と生産量のグラフから輸出入を読み取る問題で14. 8%それぞれ下回っている。資料を読み取り考察する能力が十分育っていない。	・5年で学習した内容である。都道府県名や生産と消費・輸出・輸入など既習の知識をもとに資料を活用して考察する問題でのつまずきが見られるので、学習プリントなどで復習し、日本の食料生産について確認をしておきたい。
工業生産	平均正答率は、市の平均より5. 6ポイント下回った。 ○工業製品の種類に関する正答率は95. 8%であり、市の平均を1. 5ポイント上回った。 ○工業生産に従事している人々による環境保全への取り組みについて、資料を読み取って考え表現する問題では、市の平均正答率を下回っているものの、全国平均に近く、多くの児童が2つのキーワードを使って環境保全への取り組みを表現することができた。	・5年で学習した内容である。今後も身近な工業製品や環境問題を取り上げて児童の興味関心を高めていきたい。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均より3. 6ポイント下回った。 ○情報ネットワークと国民生活とのかかわりについて、資料を読み取って考える問題では、正答率が79. 2パーセントであり市の平均を10. 1ポイント上回った。 ●情報産業の役割や責任の大きさを考える問題では、正答率が50%であり、市の平均を17. 2ポイント下回った。報道の社会的役割についての理解が不十分である。	・5年で学習した内容である。情報の社会的な役割について再確認するとともに、報道に携わっている人々の工夫や苦勞について考えさせたい。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より21. 1ポイント下回った。 ○農耕が始まっころの石包丁の使用目的、室町時代の水墨画、明治維新に江戸開城にかかわった勝海舟など、歴史上の遺産や人物名を答える設問での正答率が高かった。 ○歴史上の人物の事績について、資料を読み取って答える問題では、自分が知っている知識で答えてしまったと思われる解答が多く、資料の正確な読み取りに問題がある。	・歴史への興味が高い児童が多いと思われるので、これまで学習した知識をもとに、資料を活用して考えることができるように、学習プリント等を活用して復習させたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.6	75.6	75.8
	量と測定	67.7	72.5	71.2
	図形	55.8	62.8	71.0
	数量関係	58.8	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	50.4	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	72.2	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	65.3	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

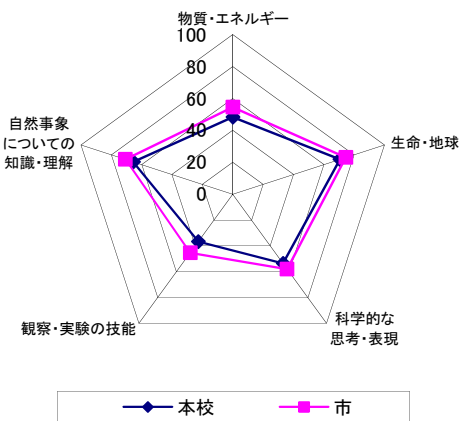
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均よりやや高く、他の領域より高い。 ○分数や小数の計算では、正答率がほぼ8割を超え、市の平均を上回っているものが多い。毎日基礎的な計算についてのプリントを宿題として課しているので成果にあらわれていると思われる。 ●小数の知識を問う問題では、市の正答率より10.0ポイント下回っており、理解が不十分である。	・基本的な計算については引き続き宿題プリントを課すことで、忘れないよう指導を継続したい。 ・知識に関する問題を苦手している傾向があるので、言葉の意味やその言葉が式のどの部分にあたるのかななどを十分に理解させ、言葉で説明する活動を取り入れ確認をしたい。
量と測定	平均正答率は、市の平均より4.8ポイント下回った。 ○台形の面積、円柱の体積など基本的な問題については、比較的正答率は高かった。 ●高さが図形の外にある三角形の面積の求める問題では正答率が市の平均より11.3ポイント下回っていた。知識を問う問題であり、基礎的な理解が不十分である。	・復習の時間を設け、定着を図りたい。 ・数学的な考え方、知識・理解に関する問題を苦手している傾向があるので、言葉の意味やその言葉が式のどの部分にあたるのかななどを十分に理解させ、言葉で説明する活動を取り入れ確認をしたい。
図形	平均正答率は、市の平均より7.0ポイント下回った。 ○円の直径から円周を求める式を選ぶ問題では、市の平均を7.9ポイント上回った。 ●線対称な図形、点対称な図形の問題では正答率が市の平均を下回っており、特に線対称な図形を選ぶ問題では市の平均より16.8ポイント下回っている。線対称、点対称の性質について理解が不十分である。	・いろいろな図形の性質について、再度確認をし、きちんと整理して理解させるようにしたい。 ・作図については、手順をもう一度確認させ、正確に作図が行えるよう問題を解かせ、定着を図りたい。 ・内角の和を求める問題について、求め方をもう一度確認をしたい。
数量関係	平均正答率は、市の平均より11.3ポイント下回った。 ○割合を使って、基準量にあたる割引き前の値段を求める式を選ぶ問題では、市の平均より0.4ポイント上回った。 ●文字と式に関する問題では、2題あり2題とも市の平均を20.0ポイント以上下回った。学習したことを活用する力が十分に育っていないことが分かる。	・基礎的な知識や技能を問う問題においては、正答率は低くないが、知識や技能を活用する問題になると正答率が非常に低くなる。復習を行い、類似問題を解かせ、必要な情報を読み取り活用する力を身に付けられるように数多くの問題に触れさせたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	48.3	54.6	57.5
	生命・地球	70.5	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	53.6	58.0	59.6
	観察・実験の技能	36.7	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	65.5	70.7	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均を6.3ポイント下回った。 ○「水溶液の性質」では、全ての設問において市の平均を上回った。実験をしながら学んだことが知識として定着したと考えられる。 ●「ふりこのきまり」では、1往復する時間を短くする方法についての理解が不足していた。実験の目的に応じた条件制御について課題が見られる。 ●「物のとけかた」では、質量の変化について、「ろ過」という言葉の基本的な知識が不足していた。 ●「物の燃え方」では、七輪における空気の流れが、実験で行ったろうそくの火を燃やす空気の流れの条件と一致しないことが正答が低い原因であると考えられる。また、炭の火が消えた原因の記述について、「二酸化炭素の割合が大きくなった(増えた)。」と解答した。物が燃えるときに酸素が必要であることについて正しく理解できていないことが分かった。	・多くの設問で正答率は高くない。これまでの学習内容が知識として十分に身に付いていない。特に、正答率の低かったいくつかの設問については見直しをさせ、なぜ間違えたのかについて確認をしておきたい。 ・児童は、実験の条件制御についての理解が十分ではなかった。条件を一つずつ確認し、実験の意図を明確にして知識をまとめさせたい。 ・実験したことをある程度理解している。しかし、実験と異なる事物(一般化したもの、別の状態のおきかえたもの)に対して知識を転移することが弱いということが分かった。いろいろな事物で実験を行うようにして指導していきたい。 ・どうしてその結果になったかの理由を記述する問題ができていない。今後、実験結果の考察をポイントを与えながらまとめて書けるよう指導していきたい。
生命・地球	平均正答率は、市の平均を4ポイント下回った。 ○「動物のからだのつくりとはたらき」では、全ての設問において市の平均を上回った。臓器の位置やそのはたらきについて、繰り返し確認を行ったことから理解度が高まったと考えられる。 ●「魚のたんじょう」では、受精後のメダカの様子や、ふ化したばかりのメダカが、何も食べないでいられることへの理解が十分ではなかった。 ●「植物のつくりとはたらき」では、植物の葉のでんぶんをつくるはたらきと日光の関係を調べるための対照実験の意味について理解が十分ではなく、説明が記述できなかった。ヨウ素デンプン反応の結果からでんぶんができた葉を選択する問題についても正答率が低い。実験の条件制御に関して理解が不十分である。 ●「生物とそのかんきょう」では、草食動物の理解と、水中での「食べる・食べられる」の関係についての正しい知識が不足していた。	